

## 遠野西中学校区の取組の総括（概要版）

遠野西中学校区研究員部会

### 1 遠野西中学校区の課題

#### （1）児童生徒の実態

- ・導入時の興味関心（中）  
「学習の始めに、おもしろそうだな・勉強してみたいなと思う」生徒の割合が低い傾向。
- ・自力解決の意欲（小）  
「課題解決する場面では自分なりに考えや手立てを考えることができた」と答える児童の割合が低い傾向。
- ・発表力、表現力（共通）  
「自分の意見を発表したり考えを文にまとめたりする活動では、相手によく伝わるように工夫することができた」「授業の中での話し合い活動では、自分の考えを補ったり、別の考え方に気づいたりすることができた」と感じる児童生徒の割合が低い傾向。

#### （2）授業者の実態

- ・授業の質の向上  
「思考力・判断力・表現力などをはぐくむ言語活動の設定」  
「所属感が感じられる問答、話し合いを組む」
- ・複式授業の指導法。
- ・授業と連動した家庭学習の必要性。

### 2 今年度学力向上取組の方向性

#### （1）授業改善の2つの視点

- |     |           |
|-----|-----------|
| 視点1 | 「学習意欲の向上」 |
| 視点2 | 「言語活動の充実」 |

#### （2）今年度の重点取組

- ①「見通し」の場面において、教科の特性に合った指導のあり方について実践を積み重ねる。
- ②意見を発表したりまとめたりする活動において、論理的な思考で表現しようとする姿をめざす。

### 3 具体的実践（授業交流会・学校公開研究会・校内研究会等について）

#### （1）授業の概要

- ① 令和元年 5月30日（木） 遠野市立遠野西中学校  
1年 理科 「身のまわりの物質 気体の性質」 授業者：教諭・岩間 篤志
- ② 令和元年10月31日（木） 遠野市立鱒沢小学校  
6年 国語 「感動の中心をとらえよう 海の命」 授業者：教諭・上野 洋介

#### （2）実践をとおして明らかになったこと

##### <第1回 授業交流会 中1理科>

###### 【視点1：学習意欲の向上】

- 生徒達にとって身近な材料を用いた数種類の演示実験、自分たちで選択できる楽しさが、生徒達を引きつけていた。
- 課題解決の手順（予想—実験方法の確認—気体の発生—考察—まとめ）を提示したことにより生徒達が主体的に実験～まとめまで進めることができた。
- 既習事項がよく定着していたことで、それを元に生徒達が予想し、実験を行い検証するという流れができ、意欲の持続につながっていた。

###### 【視点2：言語活動の充実】

- 論理的思考を高めるワークシートの構成（実験方法の確認→実験の結果→考察）

- グループでの話し合いでは「なぜ」「どうして」等のつぶやきがあったり理科用語を使いながら根拠について交流する姿が見られたりした。「〇〇が成り立つから△△である」「〇〇が成り立たないから□□を試す」というようなアルゴリズムの流れも見られ、論理的思考を高めるのに有効であった。

**【その他】**

- 単元を通した授業構想、バックワードデザインができていた。  
○予備実験を含む教師側の準備が素晴らしかった。

**<第2回 授業交流会 小6国語>**

**【視点1：学習意欲の向上】**

- 単元全体を見通し、児童を中心に据えた学習課題の設定、前時までの学習内容、キーワードなど国語コーナーの効果的な掲示がなされており、教材の世界にたつぷりと浸れる環境で、意欲付けがなされていた。  
○「なぞ解きシート」（初発の疑問「謎」と深まった考えと比較する構成）を家庭学習と連動し、意欲につながる。  
○何でも話せる学級の雰囲気作りも意欲につながっていた。

**【視点2：言語活動の充実】**

- 授業構想に交流計画シートを用いて、児童の実態に即した交流を構想し、交流の目的を整理。  
○自分の考えが持てなかった児童が、グループ交流と教師の支援で自分の考えをまとめることができた。

**<各校の実践から>**

**【視点1：学習意欲の向上】**

**≪達曽部小学校≫**

- ①導入の工夫  
・児童の声を可視化  
1年生生活科「じぶんでできるよ」  
子どもたちの声を掲示→気づきから活動の意欲へ  
保護者が撮影した写真→興味、意欲の向上

**≪小友小学校≫**

- ①課題設定の工夫  
・学習リーダー中心に「学習の進め方」の掲示に従い、既習との違いから課題を設定。  
→自分たちで課題を作ったという意識を持ち、課題解決に主体的に取り組んだ。  
・前時の振り返り場面「チャレンジ問題」（次時に学習する問題）→次時の課題づくりがスムーズ。問→題意識をもって次時の学習に取り組む様子も見られ、意欲化にもつながった。  
②見通しの持たせ方の工夫  
・「これまでのどんな考えを使うとできそうかという見当」「学習形態・活動内容・時間など学習のプロセスの見当」間接指導でも迷わず主体的に学習を進め、意欲的に取り組む。

**【視点2：言語活動の充実】**

**≪鱒沢小学校≫**

- ①考えを伝え合い、共通点や相違点を確かめるペア学習  
・直接指導で確かめた後、間接指導の間にペア学習。→自分の考えに自信をもった。  
直接指導の際に一つの言葉に焦点を当て→考えを広げる。  
②自力解決で考えを交流  
・学習リーダーを中心に考えをまとめ、全体での話し合いに進んだ。  
直接指導で、グループ毎の考えを関連づけ、根拠を確認→主人公のさまざまな思いに迫った。

### 《宮守小学校》

#### ①「本時のゴール」

- ・学習課題を解決したことで数学的よさが実感できる場や内容。→児童は本時の学習内容を見通すことができるようになり、意欲が持続。授業づくりにおいては、ねらいとゴール、評価が一体化され、整合性がとれる。

#### ②「学び合いのポイント」

- ・ねらいに迫るために思考し、話し合うための視点。本時のねらいや身に付けたい資質・能力を考慮して設定→視点からそれない話し合い。
- ・グループ活動で根拠の交流、全体の学び合いでは誤答やつまづきを解決、考えを整理→主体的・対話的で深い学び合いが行われた。算数的見方・考え方を働かせるための着眼点にもなる。
- ・学習意欲の向上のための手立て「本時のゴール」は、言語活動の充実にも有効。

### 《遠野西中学校》

#### ①全員に学びの保証がある授業

- ・4人以下の男女混合のグループ学習→自分の考えと他の人の考えを比較、考えの修正、深化。
- ・学習シートの内容工夫→生徒は見通しを持ち、根拠を明確にして自分の考えをまとめた。生徒全員が学習課題をクリアすることができた。
- ・課題は、学び合いの視点や方向性を指導者側で精査し生徒に下ろすこと、学び合いの時間を十分に保証できるよう、授業の内容を精選。行き詰まったときの支援の手立て。

## 4 諸調査結果等の結果考察（児童生徒及び授業者の変容）

### (1) 遠野西中学校区アンケート結果

#### 【視点1：学習意欲の向上】

##### ・児童生徒

	6月	11月	
「学習の始めに、おもしろそうだな・勉強してみたいと思う」	3. 59	3. 55	↓
「こうやればいいなと考えてから勉強する」	3. 55	3. 67	↑
「今日はこれを学習するのだなと分かって授業に参加」	3. 58	3. 53	↓
「課題を解決する場面で、自分なりに考えや・手立てを考える」	3. 51	3. 63	↑

##### ・教師

	6月	11月	
「導入時に興味・関心を持たせる手立てを組んでいる」	3. 16	3. 21	↑
「本時の課題を明確にし、目的意識をもたせている」	3. 28	3. 47	↑
「解決方法の見とおしをもたせている」	3. 06	3. 15	↑
「自力解決において自分の考えをもたせている」	2. 98	3. 26	↑

#### 【視点2：言語活動の充実】

##### ・児童生徒

	6月	11月	
「友だちとの話し合いがしっかりできた」	3. 61	3. 76	↑
「自分の意見が、相手に伝わるように発表する」	3. 53	3. 53	→
「友だちの考え方の良さを見つける」	3. 69	3. 65	↓

##### ・教師

	6月	11月	
「児童生徒一人一人の思考を深めるための手立てを組む」	2. 81	3. 24	↑
「思考力・判断力・表現力などはぐくむ言語活動を設定」	2. 77	3. 29	↑
「所属感が感じられる問答、話し合いを組んでいる」	2. 75	3. 11	↑

**(2) NRT 検査結果**

今年度の遠野市まちづくり指標と比較すると、西中学校区の小学校はわずかに下回ったもののほぼ同じ数値で、中学校は指標を大きく上回っている。

小学校では国語「書くこと」算数「数と計算」、記述式問題に課題。

**(3) 県学調**

小学校国語、社会、理科、中学校国語、理科…県平均をやや下回った。

小学校算数、中学校社会、数学…県平均を上回った。

- ・各学校で誤答分析を→校内研で交流→補充指導。  
知識と活用一体型の問題や、記述式の問題に課題が見られた。
- ・CRT 国、算実施した。→アシストシート等を活用して補充指導。3学期の指導に活かす。

**5 成果と課題****(1) 成果**

- ・解決方法や見通しを明確に提示したことにより、児童の興味関心が高まり、必然性がある課題が設定され、意欲に結びついた。
- ・教師が支援しながら児童の言葉で課題設定できるよう指導してきたことにより、自分たちで課題を作ろうとする児童が増え学習意欲が向上した。
- ・学び合いのポイントやグループ学習の進め方を提示することで、全体の学び合いにスムーズに繋がりを、主体的に進めることができた。
- ・全員が発表する場を多く設けたことで自信を持ち、自分の考えを発表しようとする児童が増えてきた。

**(2) 課題**

- ・考えを伝え合うための言語活動をさらに充実させ、学び合う力を高めていく。特に、相手の話を理解しながら聞いたり、自分の考えの根拠を明確にして説明したりする力をつけていく必要がある。
- ・少人数学級、複式学級のよさを明らかにした学び合いの在り方
- ・教材研究や準備段階での単元の見通し方と1単位時間の有効な使い方

**6 次年度の取組の方向性****【視点1：学習意欲の向上】**

- ・導入場面における各教科の特性に合った指導のあり方について実践を積み重ねる。

**【視点2：言語活動の充実】**

- ・意見を発表したりまとめたりする活動において、論理的な思考で表現しようとする姿をめざす。
- ・教師と児童生徒を対象とした年2回のアンケートは、西中学校区独自のアンケートを継続し、検証していく。